

福岡県公立古賀竟成館高等学校 令和4年度 学校関係者評価書(実施段階)

学校運営計画				評価(3月)	自己評価に対する学校関係者評価委員会の評価		
教育指導基本方針		① 校訓「自主 友愛 練磨」を体現し、社会を生き抜く力を修得させる。 ア 生徒主体の学習活動、学校行事等を推進する。 イ 教育活動全体を通して道徳教育・人権教育を推進し、他者を思いやる心を育てる。 ウ 部活動、学校行事等を通して、体力・忍耐力・礼儀・協調性を身につけさせる。 エ ボランティア活動を通して地域に貢献し、奉仕と勤労精神を育てる。 ② 竟成館五箇条教育を推進し、五箇条に沿う人間力を育成する。 ③ 職員の協働性と教育活動への意欲を高め、学校の課題解決を図るために、働き方改革を推進する。 ④ 次なる10年に向けて、地域に根ざした伝統校としての足場を固め、生徒の自尊心と愛校心を育成する。			自己評価は、		
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標	A		A A C D	
【成果】 (1)ICT機器が充実し、各階に保管することで使いやすい環境が整いつつある。使用頻度が増えたことで、さらに必要な周辺機器等の要望があるため、今後もより良い環境づくりに努めている。 (2)進路ガイダンスや進路説明会を通して、生徒の進路に対する意識を高めることができた。これにより、国公立大学志願者や総合ビジネス科の生徒から資格を活かした進路を考える生徒が増加した。 (3)創立60周年を無事終了することができた。70周年に向けて愛校心と自尊心を高めていきたい。		(1) 安全に安心して学ぶことができる質の高い学習環境づくり。	・生徒の多様性に配慮しながら、職員全体で一人ひとりの生徒を見守り、個に寄り添った指導を行うために、複数担任制を新たに導入する。 ・新たな時代に即した道徳教育・人権教育を推進しながら、「ほめて伸ばす」教育活動を展開する。 ・整備された校内LAN(Wi-Fi)およびICT機器(iPad・プロジェクター・スクリーン)等の設備を十分に活用して、生徒の興味関心を高める魅力ある授業や学校行事を作り上げる。 ・いじめ不登校対策委員会や拡大会議の開催を通して、学校生活や人間関係等に悩みや不安を抱える生徒の把握に努めるとともに、全職員の共通理解・共通認識のもとで指導にあたる。		A		A A C D
【課題】 (1)観点別評価については、4月からの実施に向け、教務規程の改訂も含めて取り組んでいかなければならない。 (2)職員研修に人権問題(性的マイノリティ・LGBTQ、部差差別、情報化によるいじめ等)を取り上げ、多岐にわたって研修するようにしたい。 (3)避難訓練については、地震・津波・火災・不審者に備え、いざいざ経験しておくべきであるため、避難訓練の内容を考え直す。また、地域との防災訓練を入れたり、突発的な避難訓練の実施も案に入れる。		(2) 自律的学習者の育成を念頭においた授業改善と教育活動の展開。	・自律的学習者を育成するために、一斉講義型の知識偏重授業からの脱却を図り、新学習指導要領に基づいた授業改善(主体的・対話的で深い学び)を進める。 ・授業改善アンケートや学校満足度調査、学習時間調査等を通して生徒の実態を的確に把握し、指導の改善を積極的に行う。 ・観点別評価を本格実施することにより、多面的な学習評価を行うとともに、よりよい評価方法の研究を行う。				
		(3) 地域に学び、地域に貢献し、将来地域の担い手となる生徒の獲得と育成。	・志願倍率の維持・向上を図るために、入学選抜システムの抜本的な見直しを行い、組合内中学校および塾との連携を強化する。 ・新聞・テレビ等のメディア、学校HPやSNSツールを活用して、本校の魅力を広く発信する戦略的な広報活動を展開する。 ・古賀市・福津市・新宮町との連携、および地域の小中学校との連携を通じて、生徒に地域の課題に目を向けさせ、全校生徒に在学中に少なくとも1回以上の地域ボランティアへの参加を促す。				
		(4) 学校全体で生徒の自己実現を支え、3年間を見通した進路指導体系の構築。	・進路指導の充実を図るため、3年間を見通した進路指導体系を構築する。 ・学校全体で生徒一人ひとりの希望進路に沿った進路実現を支援する「相談・指導体制の充実」を図る。 ・国公立大学の情報収集および小論文を含めた入試問題研究を積極的に推進し、生徒に自らの可能性に気づかせ、進路実現に向かわせる気運を高める。				
		(5) 生徒自身に自らの在り方・生き方を考えさせる生徒指導の推進。	・生徒が主体となり企画・運営を行う学校行事(鶴翔祭・体育祭)を実施する。 ・生徒自身が「望ましい服装や行動」等の規範を自律的に考えて、自ら変えていくとする行動や態度を育成する。 ・次なる10年に向けて、生徒の愛校心と自尊心を育成するために、「竟成館五箇条」に沿った取組を、生徒会に自ら企画立案させ、学校全体で取り組んでいく。				
		(6) 行事等の見直しによって、職員の働き方改革を推進する。	・部課制を十分に機能させ、校務分掌における業務負担の偏りを軽減するとともに、協働的で効率的な組織運営を行う。 ・業務の精選・見直しを積極的に推進し、業務の無駄を省き、必要な業務に重点的に取り組むことができるようにする。 ・新しく整備された「校務支援システム」の円滑な運用と利活用を通して、生徒情報の統合を行い、出欠管理・成績管理・進路に係る諸帳簿の作成等の効率化を図り、職員の業務負担を軽減する。				
部 課	具体的目標	具体的方策	評価	本年度の成果と次年度に向けての課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
学 務	魅力ある授業を展開するための工夫を行う。	校内LANやICT機器等の設備を活用しやすいような体制を整える。	A	A	プロジェクター、スクリーンを各教室に常設したので、活用する職員が増加した。配置されていない教室があるので、可能な限り増台してもらえよう要望を続けていく予定である。また、若干傷んできている様子もみられるので、丁寧な使用や管理について徹底を図る。 授業アンケートは、スタディサプリを活用して実施し、結果がすぐに分かるようにできたことは大変良かった。次年度は、そのアンケート結果をどのように授業改善に役立てるのか、観点別評価も含めて検討していかねばならない。「指導と評価の一体化」を目指し、研修情報課とも協力しながらアンケート結果の活用方法を検討したい。 校務支援システムは本格導入初年度ということもあるが、例えば成績処理作業を実際に行ってみて気づいたことがあり、職員への連絡や対応が後手後手になってしまったことは大きな反省点である。学務課内で使用方法を共通理解する場を設ける必要があった。権限をどのようにするかはセキュリティ面を考慮する必要があり、検討課題の1つである。また、教務以外の分掌でも活用できるメニューはたくさんあるので、より効率的に業務ができるよう、学務課が中心となって全体へ発信していく必要もあると考えている。	A	・プロジェクター、スクリーンが教室に常設され、ICT機器等の活用で魅力ある授業の展開ができていく。 ・今年度から導入された観点別評価は、テストに頼らない授業改善につながっている。 ・今後更にスタディサプリを活用したアンケートが先生・生徒共に効果あるものになることを期待したい。 ・授業アンケート等で職員の振り返りがなされている。前年踏襲とならず、アンケートの分析結果を踏まえ、課題に応じた対応が全職員で共有され、実践されるのが期待される。
		ICT機器等を活用した授業方法を研究し、実践につなげられるようにする。	B				
		教科主任会を通じ、生徒に寄り添った丁寧な指導への共通理解を図る。	A				
教 務	分かる授業に向けた授業改善に取り組み、自律的に学ぶ生徒の育成に努める。	新学習指導要領に基づき、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を進める。	B	A	全体を通して「例年行っているから」や「例年と同じ方法で実施」ではなく、本当に必要なのが精選したうえで現在の生徒や学校の実態に応じた取組を行っていく必要があると考えている。そのためには、チャレンジ精神を持って思い切ってやってみる姿勢や、実施した結果を振り返り、場合によってはすぐに軌道修正して方法を変えるなどの機動性の高い環境も大切だと思うので、学務課内で共通認識を図りながら業務を行うことが次年度の大きな課題である。		
		授業改善アンケート、学習時間調査を行うことで生徒の実態を把握し、生徒の実態にあわせた授業改善を行う。	A				
		観点別評価を本格的に導入し、教科内や職員全体での共通理解を図りながら取り組み、生徒の良い面を評価できるような評価方法を研究する。	B				
教 務	教務規程の改訂と校務支援システムの円滑な運用を進める。	教務規程を見直し、本校の実情に合わせて改訂を行う。	A	A	職員研修では、新校務支援システムやスタディサプリの使い方、AEDの救急救命法を学び有意義な研修であった。次年度は職員からの要望を精査し、本校職員のニーズに合わせた研修内容を検討したい。 若年教員研修2年目・中堅教員等資質向上研修・授業研究会を計画通り実施できた。生徒が主体的に取り組み、お互いの考えを対話を通して学び合い、学習内容の深い学びにつながるような工夫と改善をテーマに、ICTを活用した研究授業を行うことができた。学校を挙げて授業の技術力向上に向けた研究協議を行った。また、福岡県における授業改善に向けての課題や方向性についての研修を深めることができた。 年3回の授業公開週間の参観率はほぼ100%と高い一方で、教育センター等の専門研修は例年より参加者が少なかった。授業改善へ向けた取組として、次年度はさらに積極的な参加を呼び掛けていきたい。 人権教育授業は、ほぼ計画通り実施できた。今年度新たにLGBTQIに関する学習に取り組みなど、意欲的に教育内容の見直しも進めることができた。次年度も、引き続き教員・生徒の人権意識向上に努めたい。		
		校務支援システムを全体で円滑に運用するため、活用方法について定期的に職員に周知していく。	B				
研 修 ・ 情 報	研修体制の確立を図り、共通テーマを掲げ、全体での取組を実施する。	各種研修の目的を明確にし、研修の成果を検証する。	A	A	職員研修では、新校務支援システムやスタディサプリの使い方、AEDの救急救命法を学び有意義な研修であった。次年度は職員からの要望を精査し、本校職員のニーズに合わせた研修内容を検討したい。 若年教員研修2年目・中堅教員等資質向上研修・授業研究会を計画通り実施できた。生徒が主体的に取り組み、お互いの考えを対話を通して学び合い、学習内容の深い学びにつながるような工夫と改善をテーマに、ICTを活用した研究授業を行うことができた。学校を挙げて授業の技術力向上に向けた研究協議を行った。また、福岡県における授業改善に向けての課題や方向性についての研修を深めることができた。 年3回の授業公開週間の参観率はほぼ100%と高い一方で、教育センター等の専門研修は例年より参加者が少なかった。授業改善へ向けた取組として、次年度はさらに積極的な参加を呼び掛けていきたい。 人権教育授業は、ほぼ計画通り実施できた。今年度新たにLGBTQIに関する学習に取り組みなど、意欲的に教育内容の見直しも進めることができた。次年度も、引き続き教員・生徒の人権意識向上に努めたい。		
		各学期のテーマを設定し、校内研修を計画・実施する。	A				
		校内LANおよびICT機器の活用など現在の社会の動向に対応できる内容の研修会を企画し、指導力の向上を図る。	A				
	教科指導力、生徒指導力の向上に努める。	若年教員研修2年目および中堅教諭等資質向上研修を計画通り実施する。	A	A			
		授業研究会を2学期に行い、授業力向上を図る。	A				
		職員研修の充実を図る。(職員研修会を年間3回以上実施する。)	A				
	授業公開週間を通して、授業力の向上を図る。	教育センター、体育研究所で実施される専門研修への参加を促す。	A	A			
		授業公開週間において、お互いに授業を参観しあい、授業力アップを目指す。	A				
	地域、保護者、中学校を巻き込んだ授業公開を行う。	各学期に1回人権教育授業を行う。	A	A			
人権教育の推進に努める。		人権教育に関する職員研修会を実施する。	C				
ファイルの管理を徹底する。	3年以上経過したファイルは随時削除する。	B	B				
	各分掌ごとに、フォルダ内のファイルを整理する。	B					
情報管理を徹底する。	個人情報については校外に持ち出さないようにする。	A	A				
	動画ファイルなど大きなデータについては、各分掌の外付けハードディスク等のサブメモリを利用する。	B					

生徒	生徒支援	生徒が主体となり企画・運営を行う学校行事の実施	新しい生活様式に見合う、新しい鶴翔祭を創り上げる。	A	A	A	次年度も生徒の心を育てていくことが大切である。体育祭などの学校行事において、生徒にどのような経験をさせ、何を学んでほしいのか、ということを生徒部でも再度議論したい。身だしなみ指導における基準について、生徒部で議論を続け、次年度は新しい基準によって指導したい。なお、生徒会の生徒などを中心に、どのような生活態度が望ましいのか、ということについても呼びかけなどを行う。部活動の活性化については、加入率を増加させることを狙うとともに、活動によって何を学ぶべきであるか、について議論する必要がある。挨拶については、職員が積極的に行うことで、生徒の模範となることが重要であると考え。近年、生徒の人間関係のトラブルが問題となり、解決が困難であること、問題の対応に教員が苦慮する、あるいは問題が長期化する場面が多いため、スクールロイヤーなどの導入も検討していく必要がある。いずれにしても、生徒の心に対して訴えかける取組を行うことにより、本校の生徒指導力を高めていく必要があると考える。	A	・2年間できなかった鶴翔祭や体育祭が実施されたことは生徒にとって貴重な経験となったことだと思う。 ・悩みを抱える生徒や生徒間トラブル解消のため、SC、SSW活用や外部機関との連携ができていく。 ・まちづくり推進リーダーの活動や全国大会等でも受賞した家庭クラブの活動をはじめ各種ボランティア活動など地域や小学生と連携した取組は素晴らしいと思うし、その活動は地域の宝でもある。 ・生徒間トラブル等にもSSWとの連携など組織的に対応されている。今後も多様な機関との連携が期待される。		
		自主的・自律的な規範意識の育成	生徒会・委員会活動を活性化させ、定期的に話し合いをし、生徒自らマナー・ルールに関して考えさせる機会を作る。 各学年がお互いに協力し、学校全体で連携し積極的な生徒指導を行う。 学校側の柔軟な考えや対応により、生徒自身で変化を作り出せるようにする。 自らが「ルールを守る」という意識を持たせるため、あらゆる機会を通して積極的な指導を行っていく。	A A A B							
		古賀竟成館校生としての愛校心と自尊心の育成	「竟成館五箇条」に沿った取組を、生徒会に自ら立案させ、学校全体で取り組む。 部活動を活性化させるため、加入率80%以上を目標に内部・継続を促す。 強化部活動集会等を定期的に開催し、自覚を持たせるとともに学校全体への影響力を持たせる。	B B C							
		良好な人間関係の構築	生徒・教師双方による心のもった挨拶を励行する。 周囲への思いやりある行動の奨励のため、定期的にい話などをプリントや情報発信ツールを使用して提供する。 SNSの使用に関する注意喚起を生徒を中心に行う。	B B A							
		保健安全	心身の健康を保ち、自ら健康管理をする意識を育てる。また防災意識の高揚を図る。	健康診断・身体測定・スポーツテストの情報やデータを提供し、自らの健康を保ち、自ら健康管理を実践できるようにする。 SC、SSW、特別支援コーディネーター等と連携できる体制を構築する。 防災マニュアルを活用し、全職員の共通理解を図る。また緊急事態に直面した際に、適切な行動がとれる力を付ける。						A A B	
			清掃活動をスムーズに進め、校内美化に寄与できるような環境づくりをする。	清掃場所の見直しを行い、適正な配置を行う。また用具の点検・整備も行う。 施設設備の破損等について日常点検を徹底し、報告する。						B A	
	各種委員会を活性化させる。		保健委員会による定期的な情報を提供する。 美化委員会による清掃用具の点検、整備、補充を実施する。	A A							
	進路		高校生活3年間を見通したキャリア教育	キャリア教育の視点に立った探究活動を実施する。 進路ガイダンスや卒業生講話を通じて、進路実現に向けて意欲的に取り組む姿勢を育成する。 手帳を活用させ、生活や学習活動を振り返り、日頃の生活が進路実現につながるよう指導する。	B A B						
			進路実現に必要な学力の定着と向上	課外、補習、スタディサプリを用いることで、基礎学力の定着を図る。 模試の結果や入試問題の分析を行い、個に応じた支援を行う。 小論文指導、総合的な探究の時間を通し、論理的思考力・判断力・表現力を向上させる。	B A A						
			大学や就職に関する情報の共有・発信	模試の結果や入試の情報を学校全体で共有し、生徒へ発信する。 進路資料室を整備し、生徒が必要とする情報が提供できる環境を整える。 目指すべき姿や取り組む内容をイメージさせるために、進路の手引きを活用した助言を行う。	B A A						
		広報戦略	広報行事において1000名以上の参加、及び本校第一志望生徒を増やすための広報活動を展開する。	体験入学とベーシックデザイン実技講習会を行い本校の魅力を発信する。 学校説明会の時期・内容を改善し、150名以上の参加人数を確保する。 中学校訪問において中学校と密に情報交換を行い、第一志望生徒を増やす。	A B A						
			本校のホームページ、Instagram、YouTubeにおいて情報を外部へ積極的に発信し、本校の魅力を伝える。	ホームページの部活動に関する更新を活性化させる。 学校公式Instagramの更新頻度を増やし、本校の魅力を発信する。 学校公式YouTubeチャンネルの更新頻度を増やし、本校の魅力を発信する。	B B B						
広報行事や広報活動の内容の見直しと、その業務について整備をしてより良い広報活動を行う。			学校説明会の時期・内容を改善して、より効果的な広報活動を行う。 体験入学とベーシックデザインコース実技講習会を計画する。 一部の職員に業務の負担がかり過ぎないように業務を分散する。	A A B							
庶務	学校行事・式典の早期の起案		学校行事・式典の起案を2か月前を原則とし、前年度までの内容と変更点がある場合、その内容を吟味し、関係各位との調整を行う。また、実施要項の内容について初めての担当者が見ても分かるように文書を作成する。	A							
	奨学金関係事務の確実な実施		3年生の生徒・保護者に対して奨学金の説明会を実施し、奨学金関係の手続きミス等を無くしていく。同窓会修学奨励金を円滑に活用する。	A							
	PTA活動の活性化		PTAの活動に評議員以外の保護者の参加を促していく。魅力的な他校訪問や親睦事業を実施し多くの保護者が参加できるよう早めの連絡を心がける。	A							
	同窓会活動の活性化	新役員と学年幹事との連絡を密にしていき、秋の同窓会総会の参加者を増やしていく。	C								
		今年度から導入された複数担任制に伴い、式典等での係分担任において昨年度までは副任でしていた仕事の割り振りを修正する必要があった。PTA活動はほぼ計画どおりに実施できた。奨学金関係は案内や点検業務に時間がかかるので効率的な業務分担が必要であると考え。		A	A	・広報関係の行事については、前年度との比較で概ね参加数が増加して、数値目標もほぼ達成できた。計画や準備段階での急な変更にも対応し、同時に中学校単位での生徒やPTAの訪問や出前広報などの対応も行うことができた。課題としては、担任や他分掌の業務が忙しく、広報戦略としての業務依頼がしにくかったところがあげられる。解決案の一つとして、一部の人へ行事負担が集中することを避けるために、課内の係分担任を原則一つにつき複数名充てること。次年度における広報行事の精選を行い、効率化と働き方改革を推進した運営を実施することと考える。	A	・SNS等を活用した広報活動や中学校訪問や出前授業の実施等の広報戦略が志願者数の高さに反映されていると思う。 ・少子化や私立高校授業料無償化等により生徒募集が厳しくなるが、今後も魅力ある学校づくりと生徒の活動の姿の発信を継続してほしい。 ・広報の充実と働き方改革のバランスをとり、適切に精査・精選することが期待される。			
		課外を3年生のみの実施とし、スタディサプリなどを活用しての自主的な学習への取組を期待したが、スタディサプリの積極的な活用ができていない生徒とできていない生徒の隔りがある。そのため、教材のみでなく学校としての手立てを考え、生徒に発信していく必要がある。 総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜と、様々な学校で様々な選抜が行われており、生徒も様々な進路を志望しているため、生徒自身はもちろん、教員側も入試に関する情報を更新していく必要があった。2年後には教育課程改訂後最初の入試もあるため、生徒に対して適切な助言ができるように、正しい情報を入手し、発信していけるような取組を考えていきたい。		A					・九州大学はじめ国公立大学20人の合格や総合ビジネス科を含めた有名私立大学等への進学率は、先生方の進路支援や授業改善、生徒に寄り添った学習支援等の成果であると思う。 ・個々の進路実現に向けて今後も丁寧な指導、情報提供がなされることを期待される。		
		健康診断はスムーズに行うことができた。 防災訓練や熱中症予防講演会なども、昨年の反省を活かして行うことができた。 来年度は予算にも限りがあるが、清掃用具についても、工夫をすることが必要になる。 カウンセラーやSSWとの連携については十分だったが、特別支援コーディネーターは、授業と重なり対応は難しかった。また、今年度は巡回相談も実施できたので、とても役立った。支援が必要な生徒に対し、来年度も適切な支援を継続できるよう活用していく必要がある。								A	・コロナ禍において友人関係の構築に悩む生徒の心のケアを丁寧に行っていることが分かる。中途退学の少なさが先生方と生徒の信頼関係を示している。 ・SSW等との連携が図られている。特別な配慮を要する生徒への対応を関係機関と連携して行うことが期待される。

学 年	第 1 学 年	時間を意識させる	1日、1週間、1か月、1年と様々な単位で学校生活を計画する。 遅刻・欠席の状況を学年団で把握し、保護者と連携をとる。	B	A	A	入学当初から出席扱いや出校停止などが相次ぎ、なかなか良いスタートとは言えなかったが、早いうちからリモートを取り入れるなどとして、授業のフォロー等ができた。学習にも前向きに取り組む生徒が多く、7月の模試より11月の模試で成績を上げるなど、意識の高さも見られた。多様な個性を持つ生徒に対し、個に応じた対応の必要性があると感じられる。そのためには職員間の共通認識と生徒に対する理解が必要である。総合的な探究活動などの取組から、自分の進路などに興味を持ち、自己分析を行いながら進路を模索する様子も見られたため、次年度では、探究活動を通じてさらに進路に向けて意識を高めていきたい。校内での決まりを守るなど、規範意識が薄れている場面も見られたので、HRや学年集会等を通して、しっかりと自覚を持たせる必要がある。	A	・1学年は、コロナ禍の中でリモートによる自宅での授業参加や個に応じた指導と支援が図られていた。また、総合的な探究活動などの取組から進路に向けた意識づけができていた。					
		明るい挨拶の励行	誰に対しても明るく、気持ちの良い挨拶を心がける。	B	B									
		学習習慣の確立	課題等、提出期限を守る。 予習・復習を中心とし、授業に積極的に参加する。 家庭学習の時間を確保する。	B	B									
		進路意識の向上	総合的な探究の時間などを通して、自分の特性を知り、進路選択に生かす。 卒業後の進路に目を向けさせ、大学等の情報に触れる。	A	A									
		コミュニケーション能力の育成	SNSの使い方を含め、ルールやマナーを身に付けさせる。	A	A									
			相手の立場になって思いやりをもって行動する。 適切な言葉づかいで、自分の気持ちを表現し、円滑な人間関係を築かせる。	A	A									
	第 2 学 年	挨拶の励行	誰に対しても、いつでも挨拶をできるように指導する。 挨拶の大切さを、クラスや学年集会において伝える。	A	A	A	1 学校生活 全体的には規則正しい生活を送ることはできている生徒が多い。積極的な生徒指導に力を入れ生徒の自己指導能力の向上が見られた。来年度は、進路実現に向けた取組に注力していきたい。 2 学習活動 教科指導をとおして、授業を中心とした学習スタイルを定着させることができた。数名の成績不振者に対して、積極的に指導できた。来年度は、最終学年にふさわしい学習活動ができるように指導する。 3 リーダーの育成について 生徒会活動については役員の引き継ぎを順調に行うことができた。部活動の部長会を開催し、部活動におけるリーダーシップの向上を促すことができた。来年度は、学校行事や部活動でさらに下級生をリードできるように指導と支援を継続する。 4 生徒に寄り添った指導について 欠席がちな生徒に対しては、担任の日常的な声掛けにより欠席の長期化を抑止することができた。昨年度診断書が提出された生徒については、担任を中心として家庭訪問を定期的に行い対応することができた。今年度になり欠席が増えた生徒については、スクールソーシャルワーカーと連携し、医療機関へとつなげることができた。3学年では、欠席が多い生徒の進路実現に向けてサポートする。 5 その他 学年で対応が難しい場合に、生徒部長・養護教諭・管理職・スクールソーシャルワーカー等校内外の連携により組織的な対応をとることができた。来年度も、情報を共有し、迅速かつ適切な対応をしていきたい。	A	・2学年は、学習活動や生徒会活動などの指導面だけでなく欠席がちな生徒や成績不振者への学習支援等教師間やSSWとの連携が図られている。 ・進路選択に応じた学習形態の工夫に取り組んでいる。今後も適切な指導が期待される。					
		皆勤の励行	自己管理、特に、体調管理をしっかりさせる。 遅刻や欠席は連絡をさせ、理由を把握し、保護者と連携をする。 長期欠席者の対応を学年団で行う。	A	A									
		意欲の向上	行動を振り返らせ、改善した行動をとらせる。	A	A									
		学習習慣の向上	予習・復習を徹底するように、教科担当や部活動顧問と連携を図る。 家庭学習時間が増加するように、指導する。 苦手分野の克服を計画的に目標設定をさせながら取り組ませる。	B	B									
		コミュニケーション能力の育成を図る	他人の言葉や意見に素直に耳を傾け、相手の気持ちを推察する力を育成させる。 自分の気持ちや考えをきちんと言葉にして伝えられるように指導する。 携帯電話やSNSの使い方、ネットにおけるマナーを身につけさせる。	B	B									
			思いやりの心や感謝の気持ちの大切さを伝え、適切な行動ができるようにする。	B	B									
		社会性・豊かな人間性を養う	古賀竟成館高校生として誇りを持たせ、集団の一員として行動させる。 部活動や校外活動に積極的に参加させ、豊かな人間性を育ませる。	A	A									
		主体性・リーダーの養成を図る	学校行事や部活動の中核となるリーダーを育成する。 部活動・生徒会と連携してリーダーシップ力の向上を図る。	A	A									
		第 3 学 年	皆勤の励行	自己管理、特に、体調管理をしっかりさせる。 遅刻や欠席は連絡をさせ、理由を把握し、保護者と連携をする。 長期欠席者の対応をチームとして行う。	B					B	A	学校行事では、最上級生としての役割を十分に果たし、リーダーを中心に大成功させる姿は立派であった。部活動では、ほとんどの生徒が3年間最後まで継続し、達成感を味わい自己を高めることができた。ここまで多くの生徒が希望する進路実現を果たすことができた。1年次より進路を意識した指導を続けたことが良い結果へ繋がった。総合型選抜、学校推薦型選抜、就職試験等で職員間の連携した指導が効果を上げた。共通テスト、一般選抜においても学年として最後まで指導し、生徒の希望進路実現へ全力でサポートすることができた。 入学時に210名だった生徒のうち209名が無事に卒業を迎えることができた。これも学年の職員が生徒個々に寄り添った指導をしてきた成果だと感じている。 生徒たちは、多くのことを学び、感じ、豊かな人間性を育む中で古賀竟成館生としての誇りを持つことができた。	A	・3学年は、リーダーを中心に体育祭等学校行事等を成功させただけでなく、1年生時よりの進路指導等の成果が今年の進路実現にも結びついたのでと思う。 ・何より210名の生徒のうち209名が卒業できたことは、学年職員が生徒個々に寄り添った指導ができた成果であると思う。 ・今後、教育系大学に進学した卒業生が母校の教壇に立つことを期待したい。
			希望進路実現100%	それぞれの希望進路を明確にさせ、自ら学ぶ姿勢を継続させ最後まで諦めず挑戦し続けることができるようサポート体制を整え、また各分掌と連携していく。 昨年度(第3学年)の成果と反省をふまえ、生徒自らの進路目標を実現できるよう学年、進路部と連携をする。	A					A				
			社会性・豊かな人間性を養う	思いやりの心や感謝の気持ちの大切さを伝え、適切な行動ができるようにする。 古賀竟成館高校生として誇りを持たせ、集団の一員として行動させる。 部活動や校外活動に最上級生としての自覚を持たせ積極的に参加させ、豊かな人間性を育む。	A					A				
			主体性・リーダーの養成を図る	自発的な行動ができ、周囲から信頼されるリーダーを育成し、学校行事を大成功させる。 リーダーを育て、彼らを支えようとする学年団づくりをする。	A					A				
	1年次に資格取得に対する意識づけを授業担当者および学年団で行う。 部活動との両立を意識させて、日常の学習を習慣化させる。 検定合格の成果を発表して、生徒のモチベーションを維持する。			A	A									
	総合 ビジネス科		全商三種目以上1級取得率40%	商業科推薦枠がある国公立大学の情報を提供する。	B	A	A	国公立大学合格者が出たことや福岡大学の合格者数が増加したことは、1・2学年に対してたいへん良い刺激となった。また、日商簿記検定、日商リテールマーケティング検定の合格者が増加したことも、本人たちの自信につながっている。また、コロナ禍において開催されなかったチャレンジショップも3年ぶりに2学年で実施することができ、成果をあげることができた。 来年度は国公立大学受験者を増やすために、早期に対策を始めていきたい。また、生徒が望む進路に即座に対応ができるよう、日ごろから検定試験に意欲的に取り組ませていきたい。一級三種目取得者も50%を目指していく。	A	・各種検定の合格者の増加や国公立大学の合格者が出たことは先生方の指導の賜物である。 ・3年ぶりのチャレンジショップの再開とその成果も今後につながることだと思われる。				
		国公立大学への合格	商業科校長推薦などの活用を促す。 国語・政経・簿記・英語の実力養成を図る。	B	B									
		説明会の企画	出前授業へ積極的に出かける。 外部団体との連携を図る。	B	A									
				A	A									

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策(項目を設定して、箇条書きで記入すること。)

・学科再編や特色化選抜により「選ばれる学校作り」の取組の成果が入学者選抜における志願状況に示されている。生徒の期待に応える学校の魅力化をさらに推進する。  
・複数担任制については、先進的で素晴らしい取組であると評価を受けている。今年度の実践を踏まえてさらに改善を図り、協働性の深化により、生徒への丁寧な対応や働き方改革につなげていく。  
・生徒の第一進路希望の実現に向けて、ICT活用の推進と効率的な学習指導や探究活動の構築に努めるなど、生徒の主体的で自律的な学習を支援する進路指導の充実を図る。  
・生徒が安全に安心して学ぶことができる学習環境を整備するとともに生徒の心のケアの充実を推進する。  
・生徒に自らの生き方や在り方を考えさせる生徒指導を実践し、主体的で協働的に行動できる生徒の育成に努める。  
・働き方改革の推進により生徒と向き合う時間の増加を実現し、部活動やボランティア活動の充実を目指す。  
・地域との連携により生徒の活躍の場を広げ、生徒の自尊心や愛校心を高め、地域に愛される学校作りを推進する。

評価項目以外のものに関する意見

・チャアリーディング部やデザイン部等の全国大会出場や陸上部をはじめ多くの部活動が九州や県大会に出場していることは、生徒の自信や誇りとなり、学校の活力につながっていて喜ばしい。  
・授業公開週間での参観では、真剣に授業に参加する生徒の姿や整理整頓と清掃された校内の美しさを感じた。また、各廊下の机が昨年よりも増えていて、自学自習できる環境が整えられていて、廊下やロビー等での美術部や生徒の美術作品展示等が目を引いた。  
・最後に、地域に根差した伝統校として、生徒の自尊心と愛校心を育成する基本方針は、先生方の地まぬ努力と組織的な校務運営(チーム力)で実を結んでいると感じた。